

はやま住民福祉センターだより

今月のテーマ

SOSのサインが出せない方が身近にいませんか？

地域で暮らす方で、様々な問題を抱えながら、誰にも相談できなく苦しんでいる方もいます。葉山町社会福祉協議会では、誰も孤立しないまちづくりを目指し、行政や関係機関、地域の方などと連携し、生活に困窮している世帯などの問題解決に取り組んでいます。今までSOSが出せなかった方、近所の方を心配している方、ぜひ社会福祉協議会にご連絡ください。今月は地域に潜んでいる様々な問題を紹介いたします。

8050問題

8050問題とは、80代の高齢になった親が、失業(離職)やひきこもり状態である50代の子どもの経済的支援や面倒を見ているという問題のことをいいます。その状態が更に長く続く、「9060問題」もあります。

「ひきこもり」とは、原則的には6ヶ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態のことで「自室からほとんど出ない」という人もいれば、「近所に出かけることはある」という人もいます。15歳から39歳までのひきこもり状態の方が54万1千人、40歳から65歳のひきこもり状態の方が全国に61万3千人いると言われてはいますが、実際には隠している世帯や認知していない方も多く、それ以上といわれています。

老老介護

主に60代を超えた高齢の夫婦や親子・兄弟間において、相手の介護をする状態をいいます。一般的に、介護する側に生活資金や要介護者の世話をを行う時間に余裕が無いケースが少なくなく、介護する側が介護疲れで入院するなど共倒れする危険性や、ときには殺人事件や心中・自殺にも至る例もあります。在宅介護を行う世帯で老老介護が年々増加しており、今や介護をしている世帯の半分を占めているといわれ、大きな社会問題となっています。

高齢の親が障がいのある子どもの介護をし続ける「老障介護」もあります。

認認介護

認認介護とは、認知症の人が自分と同じ認知症の人を介護している状態のことをいいます。高齢者がふたりきりで暮らしている場合、家族や周囲の人が認知症に気付かず、いつの間にか老老介護から認認介護になっていることもあります。

認知症の症状があっても日常生活は送れるため、要介護申請をしていない方や、認知症の自覚がないまま介護を続けている方も少なからずいると考えられるため、認認介護の正確な実態を把握するのは難しいといわれています。

ヤングケアラー

「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを親の病気などにより、親に代わって日常的に行っている子どものことで、その責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがあります。ヤングケアラーの方が必要に応じて適切な支援を受けられる社会を実現するためには、周囲の人たちが当事者の置かれている状況を理解し、その気持ちを尊重しながら支援につなぐことが必要です。

 外出支援用車両貸出事業 ～福祉車両を貸出します～

車イス1台を含む7人まで乗れる福祉車両を走行距離40キロまで無料で貸出しをしています。

利用目的:

- 病院等の送迎(月1回まで)
- 地域の福祉活動(月3回まで)

利用できる方:

- 5年以上運転免許を保有する25歳以上75歳以下


 ●コロナ禍生活食料応援プロジェクト

新型コロナウイルスの影響により、経済的に困窮し食生活にお困りの方へ無料で食料を配布します。

申込先: 葉山町社会福祉協議会
TEL/875-9889
FAX/876-1873

1月のコロナウイルス感染者が葉山町内だけで200人を超えました。引き続きマスク・手洗い・消毒などの徹底をお願いいたします。

まん延防止等重点措置が解除されるまで、ボランティア室等の利用について、自粛を促させていただいております。